指

江戸川乱歩

青空文庫

患者は手術の麻酔から醒めて私の顔を見た。
右手に厚ぼったく繃帯が巻いてあったが、手首を切断されていることは、少しも知らない。
彼は名のあるピアニストだから、右手首がなくなったことは致命傷であった。犯人は彼の名声をねたむ同業者かもしれない。
彼は闇夜の道路で、行きずりの人に、鋭い刃物で右手首関節の上部から斬り落とされて、気を失ったのだ。
幸い私の病院の近くでの出来事だったので、彼は失神したまま、この病院に運びこまれ、私はできるだけの手当てをした。
「あ、君が世話をしてくれたのか。ありがとう……酔っぱらってね、暗い通りで、誰かわからないやつにやられた……右手だね。指は大丈夫だろうか」
「大丈夫だよ。腕をちょっとやられたが、なに、じきに治るよ」
私は親友を落胆させるに忍びず、もう少しよくなるまで、彼のピアニストとしての生涯が終わったことを、伏せておこうとした。
「指もかい。指も元の通り動くかい」
「大丈夫だよ」
私は逃げ出すように、ベッドをはなれて病室を出た。

付添いの看護婦にも、今しばらく、手首がなくなったことは知らせないように、固くいいつけておいた。

それから二時間ほどして、私は彼の病室を見舞った。

患者はやや元気をとり戻していた。しかし、まだ自分の右手をあらためる力はない。手首のなくなったことは知らないでいる。

「痛むかい」

私は彼の上に顔を出して訊ねてみた。

「うん、よほど楽になった」

彼はそういって、私の顔をじっと見た。そして、毛布の上に出していた左手の指を、ピアノを弾く恰好で動かしはじめた。

「いいだろうか、右手の指を少し動かしても……新しい作曲をしたのでね、そいつを毎日一度やってみないと気がすまないんだ」

私はハッとしたが、咄嗟に思いついて、患部を動かさないためと見せかけながら、彼の上膊の尺骨神経の個所を、指で圧さえた。そこを圧迫すると、指がなくても、あるような感覚を、脳中枢に伝えることができるからだ。

彼は毛布の上の左手の指を、気持よさそうに、しきりに動かしていたが、

「ああ、右の指は大丈夫だね。よく動くよ」

と、呟(つぶや)きながら、夢中になって、架空の曲を弾きつづけた。

私は見るにたえなかった。看護婦に、患者の右腕の尺骨神経を圧さえているように、目顔でさしずしておいて、足音を盗んで病室を出た。

そして手術室の前を通りかかると、一人の看護婦が、その部屋の壁にとりつけた棚を見つめて、突っ立っているのが見えた。

彼女の様子は普通ではなかった。顔は青ざめ、眼は異様に大きくひらいて、棚にのせてある何かを凝視していた。

私は思わず手術室にはいって、その棚を見た。そこには彼の手首をアルコール漬(づ)けにした大きなガラス瓶(びん)が置いてあった。

一目それを見ると、私は身動きができなくなった。

瓶のアルコールの中で、彼の手首が、いや、彼の五本の指が、白い蟹(かに)の脚のように動いていた。

ピアノのキイを叩く調子で、しかし、実際の動きよりもずっと小さく、幼児のように、たよりなげに、しきりと動いていた。

青空文庫情報

底本：「江戸川乱歩全集　第22巻　ぺてん師と空気男」光文社文庫、光文社
　　2005（平成17）年9月20日初版1刷発行
底本の親本：「江戸川乱歩全集　第三巻」桃源社
　　1961（昭和36）年11月
初出：「ヒッチコック　マガジン」宝石社
　　1960（昭和35）年1月
※底本巻末の平山雄一氏による註釈は省略しました。
入力：nami
校正：きゅうり
2018年5月27日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

指

江戸川乱歩

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　https://aohelp.club/
BiliBili　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/